

(様式第4号)

調査研究完了報告書

調査研究課題	茨城県産魚類における吸虫メタセルカリアの寄生状況
研究期間	平成13年度～14年度 2年間
目的	<p>近年のグルメブームに加え、鮮魚、活魚などの低温・広域流通の発達に伴い、魚介類の生食を原因とする寄生虫症が増加してきている。</p> <p>茨城県は、淡水および海水魚において全国でも有数の漁獲量を上げており、特に霞ヶ浦産シラウオは茨城県の特産品として全国各地で取引されている。これらのことから、霞ヶ浦および北浦産シラウオにおける横川吸虫の寄生状況等について調査を行った。</p>
得られた成果	<p>平成12年7月より平成14年12月の期間、霞ヶ浦および北浦産シラウオにおける横川吸虫の寄生状況を調査した結果、いずれのシラウオからも横川吸虫メタセルカリアが検出された。寄生率は北浦産が56.0-100.0%、霞ヶ浦産が0-82.0%と北浦産の方が高率に寄生していた。また、霞ヶ浦産の寄生率は平成12年7月が82.0%と最も高かったが、それ以降は約10%の寄生率であった。一方、北浦産の寄生率は毎回80%前後であった。メタセルカリア数は1匹のシラウオ当たり最大282であった。</p> <p>メタセルカリアをマウス、ラット、ハムスターに経口投与し実験感染させたところ、ハムスターが感染率および虫体回収率において最も高かった。また、横川吸虫の寄生部位は小腸上部といわれてきたが、今回の実験感染においては小腸下部であった。メタセルカリア、脱嚢虫体および実験感染から得られた虫体等の各部の計測値は、他の報告とほぼ同様であった。横川吸虫は卵黄巣の分布、精巣の位置、子宮の走行状態および虫卵の大きさから幾つかの型に分けられているが、今回得られた虫体はすべて宮田型であった。</p>
成果の普及・活用方法	<p>霞ヶ浦産シラウオは「加熱用」として販売するよう自主規制措置をとっている。水産試験場に検査方法について指導を行い、現在は、定期的な寄生率把握による漁業関係者の指導に活用している。</p> <p>また、各種発表の機会を通してシラウオ生食による横川吸虫症の健康被害防止に努める。</p>
残された課題・問題点	